



## 本村幼稚園 9月の園だより

令和6年9月1日 港区立本村幼稚園長 山崎 高志

### 千里の道も一歩から

園長 山崎 高志



長い夏休みが終わりました。夏休みの期間、お子さんはどのように過ごしていましたか。ぜひ、様子を教えてください。まだまだ暑い日が続きますが生活リズムを整えて、お子さんが元気に登園できるようご協力をお願いします。

さて、みなさんは、ご自分がお子さんの年と同じころ、自分のことをどれだけ自分でやっていたか記憶にありますか。

では、次の中でお子さんが自分で出来ていることはどのくらいありますか。確認してみてください。

○自分の着ていく洋服の準備 ○脱いだパジャマをたたむ ○食べた食器の片付け ○登園に必要なものの準備 ○ハンカチやティッシュの用意 ○習い事に必要なものをかばんに入れる

○自分の部屋で使った遊び道具などの片付け

さあ、どうでしたか。親がやっちゃっていることが多くありませんか。でも、本当は全部子ども自身ができることなのです。子ども自身ができる身の回りのことを親がやってしまいます。なぜやっちゃうかといえば、幼児期の場合、遅いことと、正確にできないことからだと思いません。親がやったほうが素早く間違いはありません。しかし、これでは子どもに確認や準備という意識が育ちません。かばんの中に何が入っているか知らないで習い事に行っているというのは本末転倒です。どんなに時間がかかっても、幼児期から言葉を添えて手本を見せ、真似て覚えさせるという手順を踏まなくてははいけません。そうしないと、勉強はできても忘れ物やミスの多い小学生になってしまいます。そして、幼児期には、こまごまと手をかけられ、小学生になった途端に「もう、小学生なんだから自分でやりなさい。」と叱られても、基本のやり方を教えてもらっていない子どもは出来ません。その結果、授業に必要なものを家に忘れて、教室で使ったものを家に持ち帰らなかつたりする小学生が多いのです。その子は「だって、〇〇が入れるの忘れた」と普通に言います。これは、おかしいですね。生活習慣の確立には時間がかかります。幼児期から時間をかけて、自分のことは自分でやる習慣を付けることが大切です。

その際、大切なのは「わかりづらいことをわかりやすく」する構造化の工夫です。例えば、「部屋を片付けるという」作業は次の工程に分けることが出来ます。①いるものと不要なものを区別する②不要なものはゴミ箱に捨てる③いるものをそれぞれの定位置にしまう

このように作業を細分化して親がサポートすると自分で片付けができるようになります。ぜひ取り組んでみてください。